

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 21 週(5 月 18 日～ 5 月 24 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 保健研究センター5月日より

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.53	(5.65)	→	→	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	3.00	(3.59)	↗	→	↑	→
3	手足口病	2.53	(1.74)	↗	↑	→	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.56	(0.56)	↑	↑	↗	↗
5	突発性発しん	0.44	(0.50)	↗	→	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(A群溶連菌咽頭炎)の報告数が県内全域でやや多く、3歳から6歳を中心に広がっています。

手足口病は引き続き高いレベルで推移しています。特に郡山保健所管内からの報告が多く、患者は1歳の子どもの目立ちます。原因ウイルスは数種類あるため、2回以上罹患するお子さんもいます。保健研究センターの検査では原因ウイルスのひとつであるコクサッキーウイルスA群16型を検出しています。

これから暑くなると、子どもの夏の感染症:咽頭結膜熱やヘルパンギーナが流行してきます。ともに、6月頃から急増してくる疾患です。タオルの共用で感染する事もあり、また治った後も病原体は便中に排泄されます。元気になってもしばらくは、トイレ後の手洗いなど注意が必要です。また、手洗い・うがいの励行は感染症予防の基本です。

～マダニにご注意を～

- ✓ 5月も終わりを迎え、薄着の季節になりました。暖かくなると、マダニなどの活動が活発になります。
- ✓ マダニは、SFTS(重症熱性血小板減少性症候群)や日本紅斑熱などの病気を媒介します。
- ✓ 農作業やハイキングなどで、草むら・野山に入るときは、肌の露出がないように長袖・長ズボンを着用するようにしましょう。また、肌が露出する部分(首など)は虫除けスプレーが有効です。
- ✓ 帰宅時は、家の外で着衣を良く払い、室内にダニを持ち込まないようにするなどの注意も必要です。
- ✓ マダニは袖口・裾口などから入り込み、皮膚の柔らかい部分を刺します。帰宅後にごま粒ほどのダニに刺されていないか、全身を点検しましょう。マダニは吸血すると巨大化し、テントウムシほどの大きさになっていることもあります。もし、マダニに刺されている場合には、丁寧に除去する必要がありますので、皮膚科などを受診して下さい。
- ✓ 全国での2014年のSFTS患者は、6月と8月に多く発生しています。

マダニ対策、今できること(国立感染症研究所HP)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 27 年 第 21 週 5 月 18 日 ~ 24 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	13 (0.24)	7 (0.64)		1 (0.09)	4 (0.36)	1 (0.50)		
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	1 (0.03)				1 (0.14)			
咽頭結膜熱	19 (0.56)	3 (0.43)	3 (0.30)	5 (0.71)	6 (0.86)		2 (1.00)	
A群溶連菌咽頭炎	102 (3.00)	21 (3.00)	28 (2.80)	20 (2.86)	23 (3.29)	1 (1.00)	9 (4.50)	
感染性胃腸炎	154 (4.53)	23 (3.29)	47 (4.70)	45 (6.43)	32 (4.57)	3 (3.00)	4 (2.00)	
水痘	9 (0.26)	2 (0.29)	3 (0.30)	1 (0.14)	2 (0.29)	1 (1.00)		
手足口病	86 (2.53)	16 (2.29)	40 (4.00)	17 (2.43)	7 (1.00)		6 (3.00)	
伝染性紅斑	8 (0.24)	5 (0.71)		1 (0.14)	2 (0.29)			
突発性発しん	15 (0.44)	5 (0.71)	1 (0.10)	6 (0.86)	1 (0.14)	2 (2.00)		
百日咳								
ヘルパンギーナ	4 (0.12)	1 (0.14)	1 (0.10)	2 (0.29)				
流行性耳下腺炎	2 (0.06)		2 (0.20)					
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	4 (0.44)	1 (1.00)	1 (0.33)	1 (0.50)			1 (1.00)	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								-
無菌性髄膜炎								-
マイコプラズマ肺炎								-
クラミジア肺炎								-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2 (0.33)				2 (2.00)			-

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、中和4)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(中和)
4類感染症	
5類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(中和) 梅毒1件(中和)

❖ 第 21 週のトピックス ❖

侵襲性髄膜炎菌感染症及び麻疹の届出基準が変更になりました。(厚生労働省HP)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html

6/1~6/7はHIV検査週間です。この間には県内保健所で17時以降や土日にも即日検査を受け付けています。予約が必要です。(奈良県保健予 <http://www.cms.pref.nara.jp/26097.htm>)

豚肉や豚レバーを生で食べないで！[441KB](厚生労働省HP)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenshu/0000053355.pdf>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

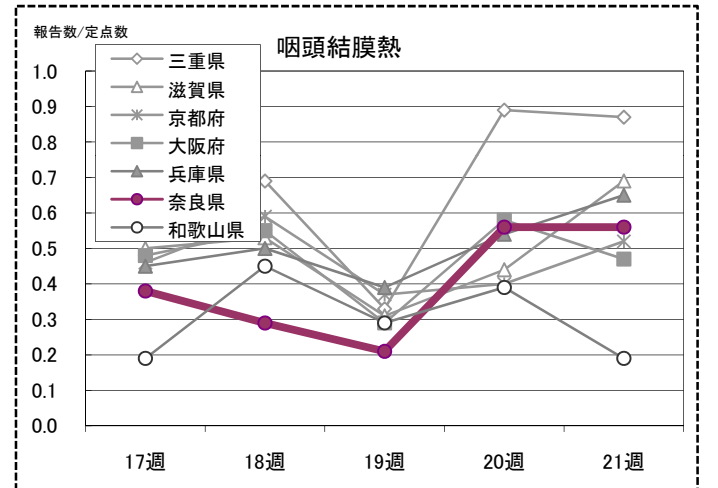
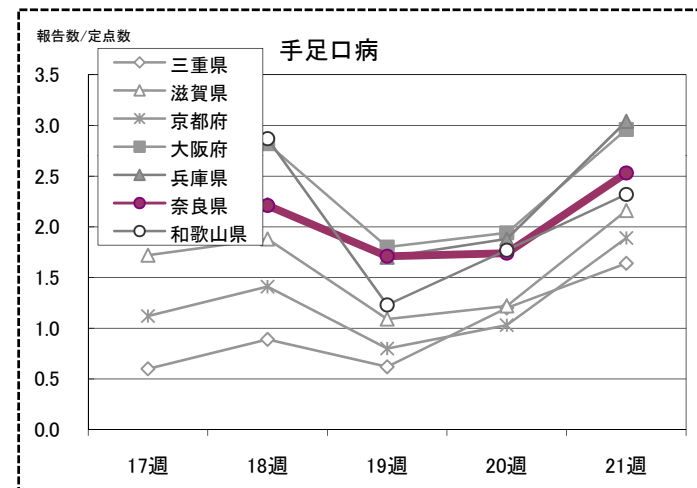
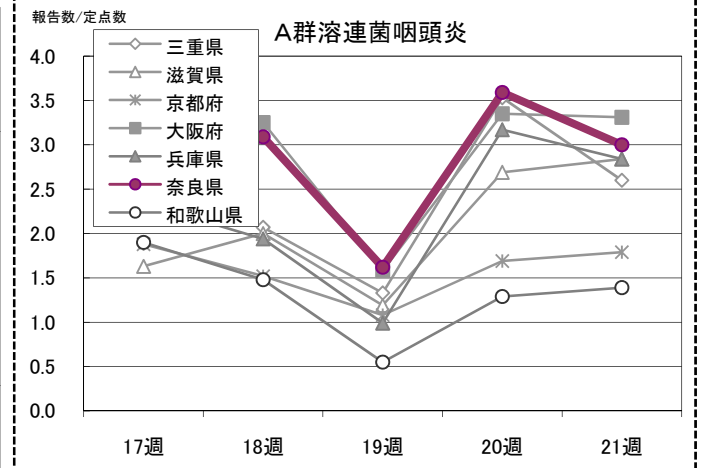
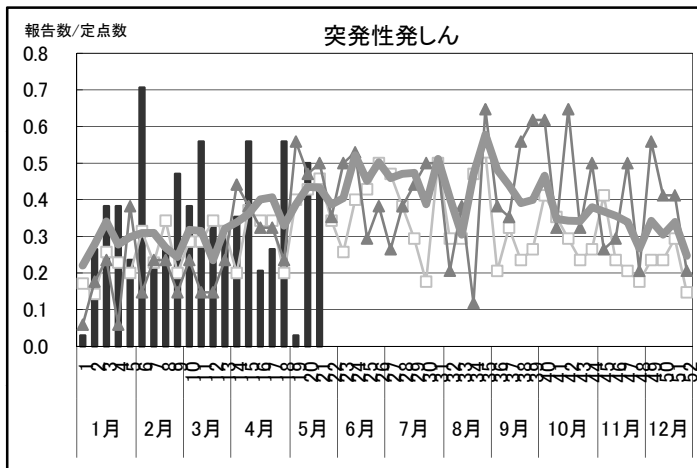
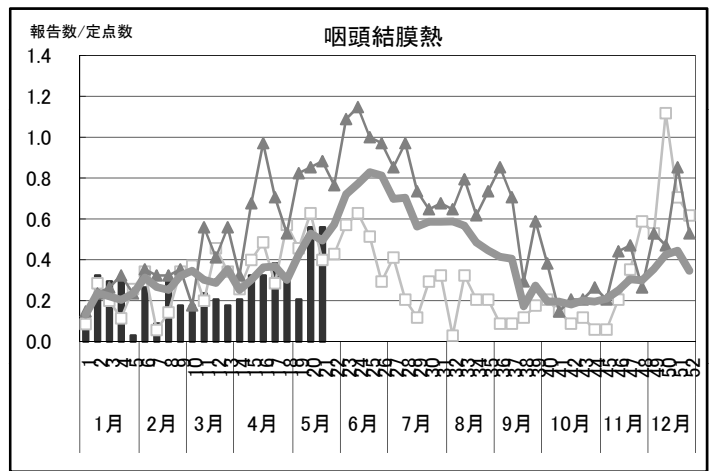
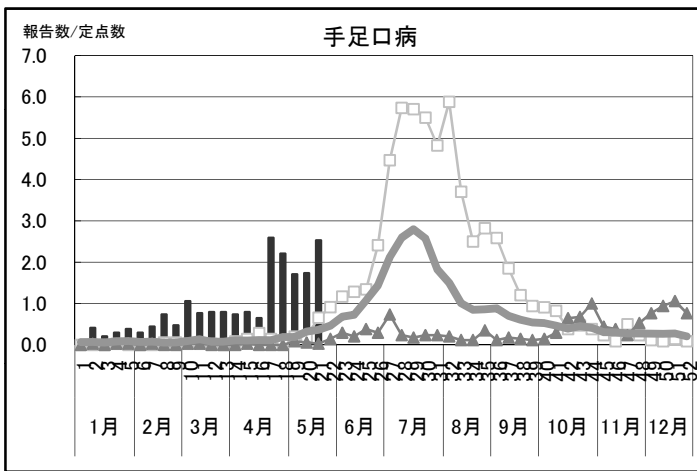
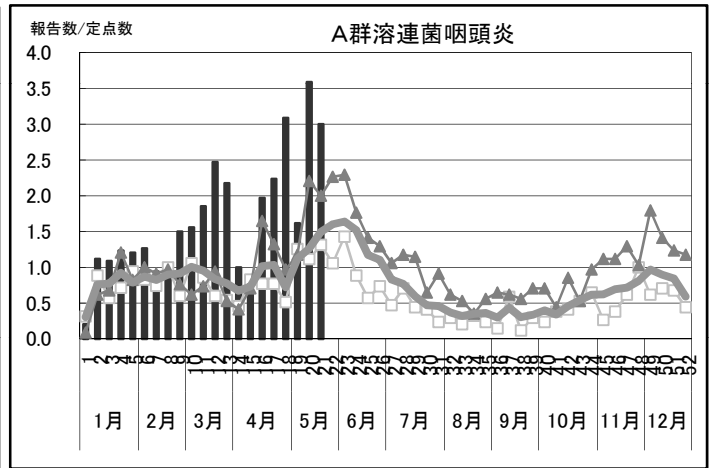
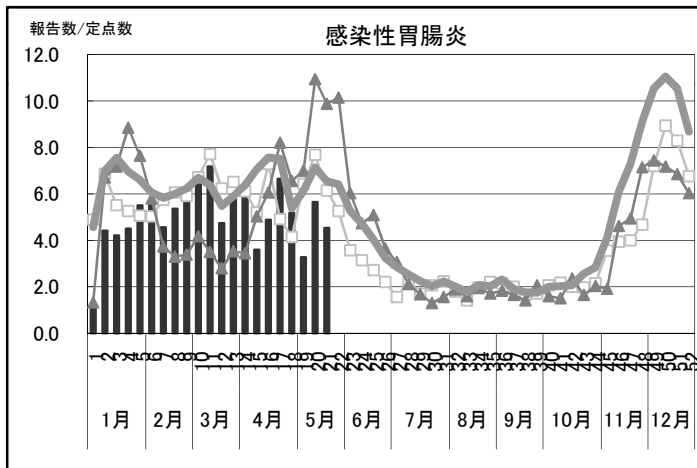
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計	累計
インフルエンザ	男									1	1		4	1		1	1				9	3974
	女												1			1		2			4	3984
RSウイルス感染症	男			1																	1	192
	女																					189
咽頭結膜熱	男		2	4	3	1	1	1	1												13	109
	女			3	1			1		1											6	77
A群溶連菌咽頭炎	男			2	4	9	6	13	4	5	4	2	4		1						54	644
	女		1	2	1	5	6	6	8	4	3	3	6	1	2						48	540
感染性胃腸炎	男		4	13	10	4	7	2	7	4	5	1	12		5						74	1869
	女	1	3	16	12	3	4	4	5	4	3	1	7	1	16						80	1724
水痘	男					1	1	1													3	141
	女		2		1	1							2								6	135
手足口病	男			15	9	13	9	2				2	3		1						54	384
	女			10	7	5	2	3		2	1				2						32	284
伝染性紅斑	男						1	1					1								4	50
	女							1	3												4	48
突発性発しん	男		3	5			1														9	133
	女		3	3																	6	122
百日咳	男																					3
	女																					1
ヘルパンギーナ	男			2		1															3	6
	女												1								1	6
流行性耳下腺炎	男												1								1	43
	女																				1	55
急性出血性結膜炎	男																					1
	女								1												2	32
流行性角結膜炎	男															1					2	29
	女															1		1				
細菌性髄膜炎	男																					3
	女																					3
無菌性髄膜炎	男																					1
	女																					1
マイコプラズマ肺炎	男																					3
	女																					7
クラミジア肺炎	男																					
	女																					
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男			1																	1	56
	女			1																	1	41

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H27 ▲ H26 □ H25 〻 過去10年平均



今シーズンのA群ロタウイルスの解析状況について

＜A群ロタウイルスによる感染性胃腸炎＞

A群ロタウイルスは乳幼児におけるウイルス性胃腸炎の主要な原因であり、ほとんどの人は5歳までに一度は感染すると言われています。

A群ロタウイルスを原因とするものは2～5月にピークをむかえ、6月には沈静化する傾向がみられます。県内では平成26年度4月、5月、平成27年度5月にA群ロタウイルスによる集団感染事例が起っています。

＜A群ロタウイルスの調査＞

ロタウイルスワクチン（経口弱毒生ワクチン）が、2011年から開始されました。ワクチンによる重症のロタウイルス下痢症の予防効果は約90%とされています。そこで奈良県内で、ワクチンがA群ロタウイルスの流行株にどのような影響を与えているかを調査しています。

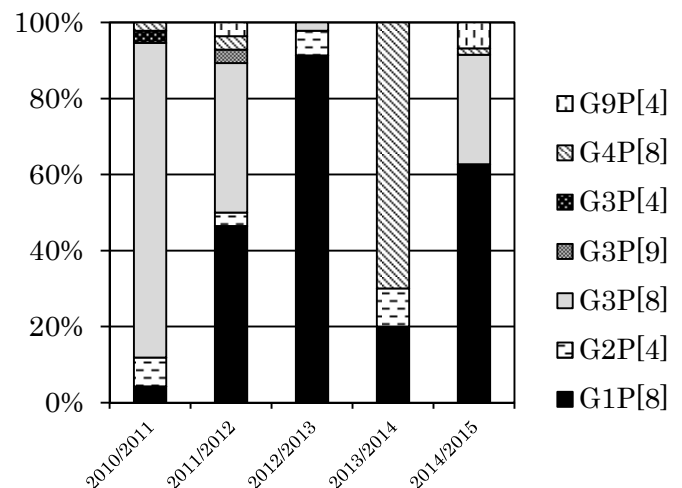
＜調査結果＞

2014/2015シーズンのうち2014年9月～2015年4月までに感染症発生動向調査により提供された感染性胃腸炎患者の検体についてA群ロタウイルスに関する調査を実施しました。

検出したA群ロタウイルスの遺伝子型は、G1P[8]が62.7%、G3P[8]が28.8%、G9P[8]が6.8%、G4P[8]が1.7%で、前年度に比べてG4P[8]の割合が減り、G1P[8]の割合が大きくなりました。患者年齢は2歳代が最も多く1～3歳代で80%以上を占めており、例年と比べて大きな変化はありません。中には、ワクチンを接種している患者が4例（1価ワクチン3例、不明1例）、入院を伴う重症患者3例が含まれています。なお、コクサッキーウイルス、サポウイルス、アデノウイルスに重複感染している例が7例ありました。

ワクチン接種歴のある患者4例はG1P[8]が3例、G3P[8]が1例で、入院を伴う重症例3例はG1P[8]が2例、G3P[8]が1例でした。

G1及びP[8]は、国内で販売されている2種類のワクチンに組み込まれており、G1P[8]の検出は減少すると見込まれていましたが、今シーズンのG1P[8]は検出割合が増加しました。これは一部に遺伝子の変異が起っていることが原因のひとつであると考えています。また、2011年以降検出が少なかったG3P[8]の検出割合も増加し重症例及びワクチン接種例からも1例ずつ検出しています。



今シーズンのA群ロタウイルスによる感染性胃腸炎患者報告は多い様で、特にワクチン接種例や重症例を中心にウイルスの詳細な調査を今後も継続していく必要があると考えています。

ご協力いただいた医療機関には厚く御礼申しあげるとともに、今後とも奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

（ウイルス・疫学情報担当）